

# こども教育会議 会議録

日時 令和元年7月3日(水) 16:00~17:00	場所 武雄市役所 4階会議室	出席 小松市長、浦郷教育長 教育委員(一ノ瀬、副島、大庭、馬場、岡本、松尾、田中、大渡、堀田) 松尾こども教育部長、牟田こども教育部理事 教育総務課(諸岡課長、杉原課長代理)、こども未来課(弦巻課長、野田参事)、学校教育課(竹内課長、百合参事、諸岡室長)、生涯学習課(山北課長)、文化課長(野口課長) 古賀企画部長 企画政策課(松尾課長、中村係長、古川)
1. 協議件名		第20回こども教育会議 (新教育大綱(案)について)

## 議事録

### 内容

#### 1 開会(進行:古賀企画部長)

#### 2 議事(議事進行:小松市長)

##### (1) 新教育大綱(案)について

##### ① 話題提供

⇒冒頭に、企画政策課から、新教育大綱の素案について説明し、その後、出席者で新教育大綱について意見交換を行った。

##### ② 意見交換

##### <出席者の意見>

- ・指針②に、親子が安心して生活できる環境づくりとあるが、子どもだけを助けるのではなく、世間では保護者が問題を抱えている状況もあるため、子どもだけでなく、その子どもを持つ家庭にやさしいという意味を入れていいのではないかと。指針①に、地域・家庭・企業・NPO団体を挙げられているが、保育施設や学校も含め、連携を図る必要がある。
- ・指針③について、子どもたちに夢を与える仕掛けを多く作っていただきたい。英語教育や先進的な教育とあるが、科学的教育を一つ入れるか、先進的な教育の中に入れ込むか、要するに理系、文系に関わらず、サポートしていく姿勢を文言として打ち出したほうがよい。
- ・指針①から④が相互に組むことによって、広がりのある教育に繋げていくことができるのではないかと。指針③には、知識も必要だが、知恵も大きく関わっている。地域の方々のアイデアや意見を取り入れて、市全体の教育に繋げてもらいたい。  
ふるさと教育について、武雄市には誇れる歴史が多くあるため、小中学校の授業にプラスして、「武雄」という教科を作ることで、子どもたちが武雄の良さを学んで実感することができるのではないかと。
- ・花まる学習の例を挙げると、人づくりには指導者のスキルが大切で、今後、人材の育成も必要。  
また、地域の方の支えがあって、成り立っていることを考えると、保護者の地域に対する感謝の気持ちや繋がりを持てる体制ができれば、さらに地域社会が連携して、子育てができるのではないかと。
- ・新教育大綱では、地域社会で、子どもを育てるだけでなく、子どもの育ちや、子どもの自立に目を向けているところに共感が持てる。今後、子どもの育ちを応援しつつ、子育てをしている保護者にも目を向けることが大事。
- ・新教育大綱については、子どもを中心として、常に色々なところが繋がり合って、子どもたちを育てるといった方向性は良い。根底には健康があって、最終的には夢の実現に繋がるイメージが良い。その流れの中で、教育、子育て、人づくりが大事になってくる。  
また、人づくりにおいては、保育園・幼稚園にも目を向けて、健康づくりや、小中学校での活動を

組み入れる方法もある。

- ・ 組むという言葉は、人を動かす言葉。教育とは、あるものを引き出すということが一番大事。今後、組むを深め、積み重ねることで、より良いものに仕上げる必要がある。これまでは、大人に向けた組むであったため、子どもたちが組むといった発想も良い。新教育大綱は、よりシンプルにすることで、様々な課題に対応できるのではないか。どこがキーポイントで、誰が主体で、どういうキーワードがあるかを整理する必要がある。
- ・ 教育においては、知・徳・体をバランスよく取り入れることが必要で、いかにして、より高いレベルに調和させるかが重要。義務教育として、鍛えるべきところは鍛えて、その上で、さらに個性的な取り組みを実践するといった過程を整理する必要がある。

<市長の発言>

- ・ 新教育大綱において、スポーツを重視しているのは、その効用として、健康的で幸せに生活できる側面を持っていることにある。スポーツは、まだまだハードルが高いものと感じるが、その効用の浸透を図っていききたい。
  - ・ 新教育大綱は、首長のための大綱ではなく、市民にとっての大綱にしていききたい。
  - ・ 組むというのは、握手するといった1対1のイメージがあったが、これからは広い範囲で繋がっていくイメージを大切にしていきたい。
- また、内容について、子どもたちを主人公に、周りが育てるといった大人目線の考え方も大事であるが、子ども目線での考え方も必要である。

### 3 閉会（進行：古賀企画部長）